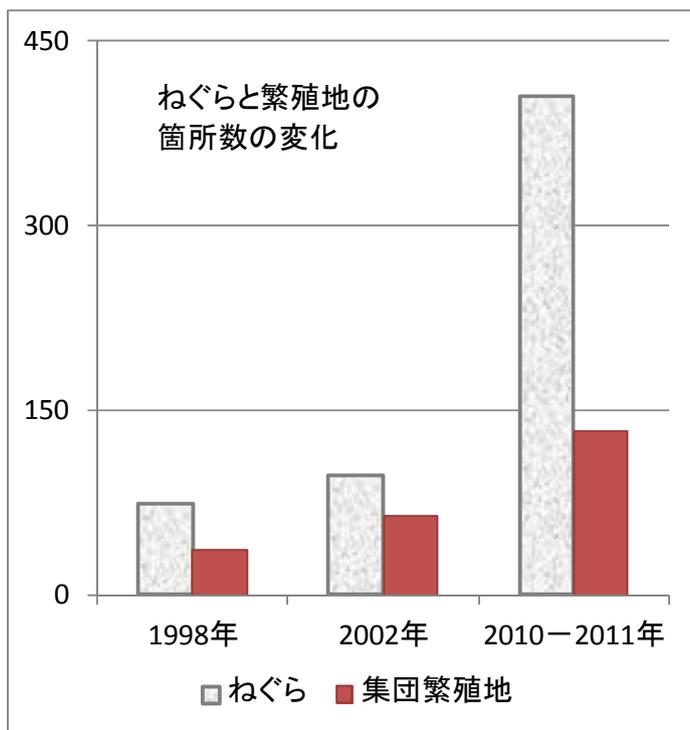


日本におけるカワウの集団繁殖地とねぐらの分布 その3

加藤 ななえ (バードリサーチ)

1970年代にかけて絶滅を危惧されるほど激減したカワウは、1980年代以降その数を回復し全国的に分布を拡大してきた。それに伴い、内水面漁業や樹林管理などの関係者による被害対策や有害捕獲などの取り組みも、全国各地でおこなわれるようになってきた。

1998年と2002年の大会で当時の最新情報を発表した。その後も各地から新しいねぐら確認の情報が多く寄せられてきた。そこで最近の状況を把握するために、現地調査と各地の野鳥の調査に携わっている人々への聞き取りをおこなった。また広域協議会や都道府県の担当部局などからも既存の資料を収集した。収集した情報は、2010年から2011年の間に確認された集団繁殖地とねぐらの位置、および生息数と巣数である。



1998年には分布は関東と中部地域に集中していたが、2002年には東北南部、北陸、近畿、中四国、九州へ広がった。今回の調査ではほぼ全都道府県で分布が確認された。また、ねぐらの箇所数がこの間に急増していることが分かってきた。このようにカワウが全国の水系で普通に見られるようになった原因を探りながら、全国的なカワウの分布をモニタリングすることから見えてきた、分布の管理上の課題についても考察する。

※ 2010-2011年のデータは2012年7月10日までの集計分である。